

美しい花

新しい年度が始まり、4月10日に行われた入学式では17名の新入生を本校に迎えることができました。入学式で述べました式辞の一部を以下に引用します。

ただ今、入学を許可しました小学部三名、中学部六名、高等部八名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

きょうは皆さんにとって大阪教育大学附属特別支援学校での学校生活の第一歩を踏み出す記念すべき日です。皆さんのなかには、ここはどこかな、中学部・高等部ってどんなところだろうと少し不安を感じている人もいるかもしれません。でも、まわりを見てください。ここにいる先生方はみんな笑顔で皆さんをあたたかく迎えてくれますので安心してください。そして、もし学校生活でわからないことや困ったことなどがあったら、周りの人に遠慮なく話してください。自分一人で一生懸命がんばることも大切ですが、人に聞くこと、頼むこと、助けてもらうことも同じくらい大切です。そして、がんばっていることや嬉しいことがあった時は、「こんなことががんばっているよ」とか「こんな嬉しいことがあったよ」と話をしてください。皆さんが毎日笑顔で登校してきて、いろいろな話をしてくれるのを、校長先生は楽しみにしています。

さて改めまして、保護者、ご家族の皆さま、お子様のご入学、誠におめでとうございます。ここにお子様の成長された姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと存じます。

今年は桜の開花が例年よりも早く、校庭の桜も葉桜となって新緑の季節へと向かおうとしておりますが、この季節になると私には想起される、ある言葉があります。

それは「美しい花がある、花の美しさという様なものはない」という言葉です。これは作家で文芸評論家の小林秀雄が言った言葉ですが、それでも人は桜を見て美しいと感じます。なぜでしょうか。それは、桜がきれいという「きれい」は桜の属性ではなく、それぞれの人の心の属性だからです。つまり「きれい」と感じる人の心がきれいだからです。私たち教職員一同は、お子様がこの附属特別支援学校でのいろいろな経験を通して、世の中の「美しさ」や「すばらしさ」を素直に感じられる、感性豊かな人に育つよう、力を合わせて教育活動に取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、きょう入学された皆さんに校長先生から3つのお願いがあります。それは「やさしく」「なかよく」「楽しく」ということです。「やさしく」というのは、自分にやさしく、そして人にもやさしく、ということです。みんながやさしいと「なかよく」なることができます。そして、みんなが「なかよく」なると一緒にいて「楽しく」なります。入学された皆さんが、やさしく、なかよく、友達をたくさんつくって、附属特別支援学校での学校生活を笑顔で楽しく送れるよう、先生たちと一緒にがんばっていきましょう。

以上のような話をしたところ、後日、高等部に進学したある生徒が「美しい花がある、花の美しさという様なものはない」と書き、文字の周りを自分が好きな色（紫色）で彩った作品を見せてくれました。保護者の方々に向けて話した内容が生徒にも伝わっていたことに感動するとともに素敵だなと思いました。

花と言えば「世界に一つだけの花」という楽曲に「NO.1にならなくてもいい もともと特別なOnly one」という歌詞があります。あまりにも有名なフレーズであり、賛否両論、様々な意見があります。確かに、一人ひとりが「オンリーワン」すなわち「かけがえのない」存在であるのは間違いありませんが、それが「自分だけ」という方向に向かうと少しやっかいです。その点「ナンバーワン」は相対的な位置づけですので、他者の存在が常に前提となりますからそのような懸念はありません。自分にとってあるいは他者にとって「オンリーワン」であることも大切ですが、「自分だけ」という意識に陥らないためにも何でもよいのでナンバーワンをめざしてみるのもよいのではないのでしょうか。大切なのは、ナンバーワンになるかならないかではなく、めざすものに向かって手を伸ばすこと、めざすところに向かって歩み続けることにあります。「純粋に音楽を楽しみなさい」という声がどこからともなく聞こえてきそうなので、このあたりでやめておきます（純粋って何？と聞き返したくなりますが…）。

本校の構内も美しい木々や花々で溢れています。いつもお世話をしてくださっている保護者、教職員、守衛の皆さん、ありがとうございます。

